

## 研究授業指導案

指導者  
指導教諭

日時：令和元年 6月20日（木）5時間目 14時35分～15時25分

場所： 4階 1年7組

### 使用教材

教科書：『高校現代社会 新訂版』実教出版株式会社

資料集『ズームアップ現代社会資料 新訂版』実教出版株式会社

### 1. 単元名

大項目 現代社会の諸課題

中項目 科学技術の発達と生命

小項目 現代の医学が問う生死のあり方

### 2. 指導計画

生命倫理・生命のはじまりへの介入（1時間）

生命のはじまりへの介入・生命を創造（1時間）

再生医療・臓器移植（1時間）

自らの死の選択方法（本時）

### 3. 単元設定の理由

#### (1) 教材観

生命倫理を学ぶことによって、現代社会における倫理的問題があると理解出来る。今回の単元では、死に対する考え方について考える分野だ。この項目を学ぶ事で、1人1人の死生観を獲得することに繋がる。そして、生徒達にとって最適な選択が出来るように、教材を通じて考える知識を与えられる。

#### (2) 生徒観

クラスの雰囲気は真面目で、授業内のワーク等にも積極的に参加する。生徒達は、科学技術の発展に伴って倫理的問題が起きていること、生命の生死に人が介入出来ることをこれまでの授業で学んでいる。生徒達は、授業の内容は定着しているので、死のシチュエーションに出会った時を想像出来ると思う。

### (3)指導観

1年7組の生徒は、反応は薄い指示には従う。授業への集中を保つには、細かい指示出しを行う必要がある。今回の授業では、プリントで死に関係する知識を説明する。その後、ワークを行う。ワークを行う事により、学んだ知識をアウトプットし、死のシチュエーションに出会った時を想定して自身の考えを書く。このワークを通して、自分ならどう考えるか、と考えるきっかけになるように、追求を促していきたい。

### 4.単元のねらい

生きている上で逃げることは出来ない生命倫理を学び、彼らなりの生死に対する意見を形成してもらいたい。そのためには、生命倫理・生命のはじまり・生命の終わりに関する知識を指導する。その知識に基づき、意見を形成するように促していく。

### 5.評価の基準

- ①生命倫理についての知識が定着出来ているかどうか。
- ②生命の質・生命の神聖の内容を把握し、自己表現出来るか。
- ③自分の立場に置き換えて考えることが出来るか。

| 授業内容  | 生徒の活動   | 教師の働きかけ  | 留意点  |
|---|---|--|--|
| <p>導入<br/>(5分)</p>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを受け取り、名前を記入。</li> <li>・前回の復習をする。</li> <li>・今回は、人の死の選択や、その決断の伝え方の勉強をしようと理解する。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布。</li> <li>・前回の復習をする。(自己決定権)<br/>→復習により、今回の授業に入りやすくする。</li> <li>・社会で死の考え方が変容したことを理解するように促す。<br/>→死の選択が多様化してきたことを伝える。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に切り替えを促し、授業に取り組む準備をさせる。</li> <li>・導入で5分程度を守るように意識する。</li> <li>・自己決定権という言葉は、黒板の右端に書く。(白チョーク)</li> </ul> |
| <p>展開<br/>(40分)</p> <p>インフォームドコンセントの原則<br/>(5分)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は自分の命をどのように扱うかを考える。</li> <li>・⑧インフォームドコンセントの原則と板書し、説明を聞く。<br/>→自分の身体に何がなされるか医師から説明され、合意してから医療を受ける原則だと理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業が、人の死の選択について扱おうと説明する。</li> <li>・⑧インフォームドコンセントの原則と板書し、説明をする。<br/>→この原則を実現するために、医者と患者の関係を築くことが大切だと伝える。</li> <li>・加えて、インフォームドコンセントの</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の大きさが適切かどうか生徒に確認する。</li> </ul>   |

|                                |   |   |  |
|--------------------------------|---|---|--|
| <p><b>安楽死と尊厳死</b><br/>(5分)</p> | <p>→対義語にパターンリズムという言葉があると理解する。</p> <p>・社会の中で死生観が変容し、自らの死を選択することが出来る時代だと理解する。</p> | <p>原則が形成された過程を説明する。<br/>(患者の自己決定権を尊重し、患者中心の医療になった)</p> <p>→対義語にパターンリズムという言葉があると理解させる。<br/>医師が下した判断を患者が受ける、医師中心の考え方だと理解させ、患者中心の医療現場になったと再確認させる。</p> <p>・死生観が変容し、自らの死を選択することが出来ると伝える。その方法に安楽死があると説明する。<br/>→⑨安楽死と板書し、説明する。<br/>安楽死は、自らの死を人為的に早めるために、投薬をすると説明。</p> <p>・安楽死の説明の際、消極的安楽死と積極的安楽死の説明をする。</p> | <p>・授業の終わりに、安楽死・尊厳死に関するワークを行うと事前に伝える。</p> <p>・安楽死の目的が苦痛を取り除くことだと説明し、プリントに線を引くよう指示。</p> |
|--------------------------------|---|---|--|

|                           |   |  |  |
|---------------------------|---|--|--|
| <p>・リビング・ウィル<br/>(4分)</p> | <p>・⑩尊厳死と板書し、説明を聞く。<br/>→尊厳死は、人の尊厳を保ったまま死ぬことだと理解する。</p> <p>・自分の死の選択や希望の医療を意思表示するための方法として⑪リビング・ウィルがあると知る。<br/>⑪リビング・ウィルとプリントに書く。</p> <p>・似たような意思表示方法に、エンディングノートがあると知る。</p> | <p>・安楽死とは別の、死の選択があると説明。<br/>⑫尊厳死と板書し、説明をする。<br/>→尊厳死は、自分自身で意思表示し、延命治療をやめて人間らしく死ぬことだと説明する。</p> <p>・自分の死の選択を意思表示するための方法として⑬リビング・ウィルがあると説明する。<br/>⑬リビング・ウィルと板書し、説明をする。<br/>→意思表示が行える間に、希望の医療や死の選択を記すものだと説明する。</p> <p>・似たような意思表示方法に、エンディングノートがあると説明する。リビング・ウィルとエンディングノートを対比し、目的の違いを指導する。</p> | <p>・尊厳死の目的が、人間の尊厳を保ったままの状態死ぬことだと伝えるために、プリントに線を引くよう指示する。</p> <p>・資料集 pp.40 を開かせて、リビング・ウィルがどんな形式で記入するのか揭示する。</p> |
|---------------------------|---|--|--|

|                       |  |   |  |
|-----------------------|--|---|--|
| <p>・ホスピス<br/>(3分)</p> | <p>・身体的苦痛・精神的苦痛を取り除くことをサポートする施設があると知る。<br/>→⑫ホスピスとプリントに記入する。</p> <p>・プリントのホスピスの写真を確認する。</p>                      | <p>・末期ガン患者などが、人間らしい生き方を全うするために、身体的苦痛・精神的苦痛を取り除く施設があると紹介する。<br/>→⑫ホスピスと板書し、説明する。<br/>ホスピスは最後まで人間らしく生き抜くことを目的としていることを伝える。</p> <p>・ホスピスの例をプリントで紹介し、具体的にどのようなケアが行われているか説明する。<br/>Ex.家族と過ごす時間を設ける。</p> | <p>・プリントの「人間らしい生き方を全うして死ぬ」に線を惹くよう指示する。</p> |
| <p>・生命の質<br/>(5分)</p> | <p>⑬生命の質とプリントに書く。<br/>生命の質と板書し、説明を聞く<br/>→長く生きることを目的とせず、人間の尊厳を保ったまま死ぬと理解する。<br/>・生命の質と議論される言葉に、②生命の神聖があると知る。</p> | <p>・人間の尊厳を守るための考えとして⑬生命の質という考えがあると説明する。<br/>生命の質と板書し、説明する。<br/>→長く生きることを目的とせず、人間の尊厳を保ったまま死ぬと説明する。<br/>・生命の質と議論される言葉に、②生命</p>  | <p>・板書で、生命の質と生命の神聖を対比する。</p>               |

31

**WORK**

(18分)

・ 3段階の WORK に取り組む。  
→今回の授業で学んだことから、  
①もし自分が回復の見込みが無いと判断された場合に延命治療を望むか？  
②もしあなたが医師なら、回復の見込みが無い患者に延命治療を施しますか？  
③もしあなたの家族が回復の見込みが無いと判断された場合、延命治療を求めますか？  
理由を含めてワークに記入する。

の神聖があると指導する。  
→混同されないように注意する。  
・生命の質と生命の神聖の対比を、板書にメモをして伝える。

・ 3段階の WORK に取り組ませる。  
新聞記事を読ませ、自分以外の人の考えを新聞記事から知ってもらう。  
→ワークの判断材料にしてもらう。

→今回の授業で学んだことから、生徒達には死に直面した時を想定してもらう。

・ 生徒やその家族が死に遭遇した時に、彼らにとって最適な判断をしてもらえるように指導する。

・ 自分自身の経験を伝え、全員がぶつかる課題だということ伝える。

・ 今回の授業の要点である生命の質・生命の神聖・自己決定権についてのおさらいをする。

・ 机間巡視をして生徒の WORK のサポートをする。

|                     |   |  |  |
|---------------------|---|--|--|
|                     |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に考えを発表してもらって、フィードバックをする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発表に対して、反応する。</li> </ul>             |
| <p>まとめ<br/>(2分)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のまとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のまとめをする。</li> <li>→重要な内容である、安楽死・尊厳死・生命の質を伝える。</li> <li>・今回の授業は、必ず人生で降りかかってくることなので、他人事と思わないように教える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が片付けを開始しても、最後まで聞くように指導する。</li> </ul> |